

東西宗教交流学会 第43回(2025年度)大会プログラム
テーマ「分断と統合——宗教から何を語れるか」

日 時：2025年7月29日（火）、7月30日（水）

会 場：上智大学7号館4階文学部共用室A（上智大学四谷キャンパス内）

7月29日（火）

10時00分-12時00分 第一セッション

発表者 黒柳 志仁（同志社大学 准教授）

講演タイトル「平和を求める、なぜ戦うのか——旧約聖書の平和思想を中心として」

応答者/司会 角田 佑一（上智大学 准教授）

13時00分-15時00分 第二セッション

発表者 竹村 牧男（会員 東洋大学 名誉教授）

講演タイトル「東洋的靈性と平和への一視点——大乗仏教の思想から」

応答者/司会 石井 砂母亜（跡見学園中学校高等学校 教諭）

15時15分-17時15分 第三セッション

発表者 飯塚 正人（東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授）

講演タイトル「引き裂かれるイスラーム——分断志向と統合志向の間で」

応答者/司会 鶴岡 賀雄（東京大学 名誉教授）

17時45分-懇親会

7月30日（水）

9時30分-11時30分 個人研究発表

発表者 菅原 潤（日本大学 教授）

講演タイトル「阿部正雄と西洋思想」

応答者/司会 寺沢 邦彦（ワートバーグ大学 教授）

11時30分-12時30分 総会

14時00分-16時00分 第四セッション

発表者 宮本 久雄（東京大学 名誉教授）

講演タイトル「親和と相生」

応答者/司会 田中 裕（上智大学 名誉教授）

16時20分-17時00分

全体ディスカッション（4人の登壇者とフロアを交えた討論）

司会：田中 裕（上智大学 名誉教授）

17時00分-18時00分

統括、学びの分かれ合い

司会：石井 砂母亜（跡見学園中学校高等学校 教諭）

※ 会員外の方の参加費は1000円です。奮ってご参加ください。

東西宗教交流学会事務局

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18(南山大学内)

南山宗教文化研究所内

電話(052)832-4354

FAX(052)833-6157

E-Mail: tozai-jimukyoku@nanzan-u.ac.jp

東西宗教交流学会 第43回(2025年度)大会レジュメ

7月29日(火)

10時00分-12時00分 第一セッション

発表者：黒柳 志仁

講演タイトル：「平和を求める、なぜ戦うのかー旧約聖書の平和思想を中心として」

要 旨：平和を求めるはずの宗教が、これまでの歴史の中で戦争にどう向き合ってきたのだろうか。「分断と統合」をキーワードに、西洋キリスト教社会における絶対平和主義、正戦、聖戦という戦争の形態を取り上げ、ユダヤ教からキリスト教に継承された平和思想について、旧約聖書の視点から概観する。

13時00分-15時00分 第二セッション

発表者：竹村 牧男

講演タイトル：「東洋的靈性と平和への一視点ー大乗仏教の思想から」

要 旨：経済的格差やイデオロギー的分断が広がる地球社会において、人間性の回復は緊要の課題である。その人間性の最奥のものが靈性であろう。大乗仏教の『華厳経』、『法華経』、『涅槃経』などに東洋的靈性のあり方を尋ね、寸心・大拙の宗教哲学に照らして、その靈性が分断の超克、平和の実現にいかに寄与しうるかについて考察する。

15時15分-17時15分 第三セッション

発表者：飯塚 正人

講演タイトル：「引き裂かれるイスラーム：分断志向と統合志向の間で」

要 旨：世界の分断化が進む今日、欧米に暮らすムスリムが異教徒を意識して発信するイスラーム論は分断への抵抗と見なし得る一方、「イスラーム国」に代表されるジハード思想は分断、あるいは武力による世界統合を目指しているように見える。本発表ではこうした二面性をふまえ、分断と統合をめぐって、今日のイスラームが抱えている諸問題について考察したい。

7月30日(水)

9時30分-11時30分 個人研究発表

発表者：菅原 潤

講演タイトル：「阿部正雄と西洋思想」

要 旨：阿部正雄は国内では滝沢克己と八木誠一の論争を調停した論者として、海外では論文集『禅と西洋思想』の著者として知られている。論文集に収められた4本の論文を検討したうえで、それらの論点を長崎で被爆したカトリック信者の永井隆の浦上燔祭説と突き合わせることで、禅とキリスト教の対話を高い次元へともたらしたい。

14時00分-16時00分 第四セッショ

ン 発表者：宮本 久雄

講演タイトル：「親和と相生」

要 旨：本発表の核心はまず親和 (connaturalitas) である。邦訳の親和のラテン語は「本性を共にすること」を意味する。本性の共有は愛によってのみ実現する。人と人が愛する時、無意識のうちにお互いの深い心が通底する。その時互いが互いの本性に関わる知を共有する。神と人、人と自然にもこの親和が当てはまる。本発表ではこの親和の具体例を幾つか示したい。